

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nicholsピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会」 Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

<登山道や自然公園の歩道に出没する熊について>

下記の記事は「札幌市豊滝市民の森の散策路で熊が目撃され、9月末まで、入園禁止にする」と言う北海道新聞9月18日のものである。

2015.9.18  
札幌市は17日、同市南区  
豊滝195の「豊滝市民の  
森」でヒグマの目撃情報が  
寄せられたため、市民の森  
を閉鎖したと発表した。閉  
鎖期間は今年30日までの予  
定。  
16日午後3時45分ごろ、  
市内の男性が市民の森の北  
西側入り口から約500m入  
った散策路を歩いていた  
ところ、約50m先に体長約  
1.7mのヒグマを目撃し、  
市みどりの管理課に通報し  
た。  
市は新たなヒグマの出没  
情報がなければ、10月1日  
午前に閉鎖を解除する。

<また、次は小学校校長さんから私宛のmailで、札幌市西部に連なる峰の一つである春香山907mに小学生が集団で登山をするに当たり、熊に対する危惧について、私の考えを求めて来たものである>

[ 門崎先生に、小学生が遠足で熊の生息地である春香山に登ることについて、ご意見を伺いたく、メール致しました。本校は春香山の麓に所在しております。8年ほど前から、子ども達に忍耐力を養い自然に触れさせることを目的に、秋に春香山登山遠足を実施して参りました。今年度も、9月11日に実施の予定で準備を進め、9月9日に登山道の最終確認に行ったところ、登山道に数日経った熊の糞と思われるものを発見しました。翌日、市役所の生活安全課職員と、地元猟友会のハンター2人が同行し現物を見たところ、熊の糞であることが確認されました。また、下山途中では、登山道の私達がいる付近でクマが現に活動している音（ハンターの方たちによる）を聞くこととなりました。このような状態で春香山に小学生の集団を登らせることはリスクが大きすぎると判断し、今年春香山への登山遠足を中止することにしました。

この判断について、門崎先生としてはどのようにお考えになられるでしょうか。よろしければご意見をお聞かせください。また、「このような状態であれば、小学生がヒグマの生息域の春香山に遠足を実施しても問題ないであろう」「このような状態であれば、小学生を遠足でヒグマの生息域である春香山へ立ち入らせるべきではない」といった判

断基準を設けるにあたってのご助言などがございましたらお教えてください ]

#### <門崎の回答>

・春香山登山での熊についての御心配の件ですが、登山道を歩く限り、熊と出会ったり、最悪の場合は襲われるかもと言う心配は無用です。・あの地域も熊の生活圏になっていて、熊が利用していますが、あの登山道について言えば、人がよく利用していますので、熊は登山道が、人の利用地であることを、学習記憶していて、例え、人が近くに来るまで、熊があの登山道路にいても、人の気配を感じれば、その場から、立ち去るものです。人を襲う事は、あの地域の熊に付いて言えば、皆無です。糞があったとか、熊の気配があったとかで、恐れることはありません。子供達には、登山道路から、外れないように、注意すればよいでしょう。熊の事を気にすれば、春香山登山はし得ないでしょうね。

#### <門崎の補足の回答>

① 熊は非常に頭脳明晰で、経験による学習能力に長けた獣です。時に母から自立した(自立の時期は5月から8月末の間ですが)若熊(母から自立した年の子熊の義)が、人家付近や街が、自分が生活地として、使える場所か否か確認学習の為に、人家付近や街に出て来ることがありますが、使えぬ事を納得すれば、出て来ませんし、このような熊が人を襲った事例は皆無です。

② 同様に、山地でも、人がよく来るような場所では、己が使って良い場所と、不可の場所を、学習し、わきまえて、行動しているものです。人がよく歩いている登山道なども、同様に、人がいない時は、熊が使いますが、人が現れた場合は、人に登山道を譲り、熊は他所に移動し、人が通り過ぎると、人が再度来るか否かを見極め、人が来ぬ事が分かると、道路に、出て来ると言うような、生活をしているものです。

このような知見の取得は、熊のいる場所に頻繁に行き、熊の生活状態そして行動について、観察考究しそれを更に検証すると言う行為が必須なのです。

③ 故に、札幌市が、自然公園などの遊歩道で、熊を目撃したとか、糞や足跡があった事を理由に、入城禁止にしているが、そのような入城禁止は全く不要な事で、いたずらに利用者に熊への恐怖心を煽るだけで、熊の生態に無知な連中の恥ずべき判断行為と言うべき事象である。このような行政の態度が続く限り、熊と人は共存し得ないであろう。

④ 北海道の田舎では、今も多くの地域で、熊が人家近くに出没しても、それは極自の事として、騒ぐ事無く暮らしている地所が多くある。要するに、そう言う地域では、人と熊は②の形で、共存しているのである。北海道新聞は、各地の熊出没を記事に掲載しているが、これは単に熊を危険なものとして、害獣視を煽っているとか、言いようが無い書き方報道姿勢である。北海道で熊を害獣視し始めたのは1875年(開拓使)だが、以来今日も行政は熊を害獣として、檻罠での駆除を奨励している現状は憂うべき事である。その元凶は行政に関与している熊研究者なる連中が補助金と報道で己を銜う名誉欲とで、熊の生態を学ぼうとせず集団で互いに保身し合っている現状にある。

( 了 )